

子ども^{ども}の森通信



子ども^{ども}の森通信
第 15 号
2018 年 6 月 発行

子どもの森通信 15 号 The kodomonori Environmental preservation Non Profit Organezation

四季をまるごと体験 eco スクール	2 ~ 5	水辺の環境づくり	6 ~ 7
環境プログラム	8 ~ 9	子どもの森が取り組む豊かな森づくり活動	10
森の学舎	11	平成 30 年度活動予定	12



1 2017.5.14

- ◆開講式
- ◆ネイチャーゲーム
- ◆麦刈り
- ◆はさ掛け

開校式では、学校名や学年、活動に参加した目的などを自己紹介。学舎周辺の身近な自然に触れるためのネイチャーゲーム〈はじめまして〉〈フィールドビンゴ〉を実施しました。



私たちの住んでいる地域の環境は、ここ40、50年で激的な変化が起っています。山は切り開かれ宅地造成が進んで、子どもたちのすぐ近くの遊び場であった里山がなくなりました。水遊びができた川や海は遊泳ができないほど汚れてしまいました。

麦刈り作業

前年度 eco スクール生が、種まきして育った麦を稲鎌で刈りとっていききました。



はさ掛作業

刈った麦は、穂を揃えて束ねていき、はさ掛けしていききました。

2

2017.5.28

- ◆大豆種蒔き
- ◆麦の脱穀
- ◆ダンボールコンポスト作り



麦の脱穀作業には、昭和初期と昭和20年代足踏み脱穀機2台と明治時代の干羽すきを使っています。

大豆の種蒔き

麦刈りした後に、豆腐づくりのための大豆の種まきをしました。





ダンボールコンポストは、段ボールにピートモス等の基材を入れ、ゴミの減量化と堆肥としての食べ物の循環、堆肥の作り方管理を学びました。スクール生が家庭で使用し、出来上がった堆肥は、11月の麦畑に利用します。

風選作業

脱穀した麦は、もみ擦り後、唐箕（とうみ）を使って、実ともみを分離していきます。



ダンボールコンポスト作り

宮崎県ダンボールコンポスト県北支部の早川さんに、指導していただきました。

2016.7.16

4

イカダづくり

8月のイカダで川の清掃活動に使うイカダを作りました。



3

2016.6.25

◆海水で塩をつくろう

海水は、門川漁港から船で約8キロの日向灘沖にて汲んだものを使用しました。3グループに分かれ、簡易釜戸で10リッターの海水を沸かして水分を蒸発。ろ過して塩を採取。再び釜戸で煮て塩とにがりろ過して完成です。



竹、コンパネを使いイカダ作りをおこないました。コンパネに、設計図通りに穴を開けていきます。そして、浮力のために、4個一組にしたペットボトルを紐で40個取り付けていきます。

海水から塩作り

門川沖から汲んできた海水を使って塩を作っていきます。





5

2017.8.11

- ◆イカダで清掃活動
- ◆川の生き物調査

森の学舎の前を流れている五十鈴川で、前回作ったイカダを使って川側からできないと撤去できない川岸のゴミひろいを行っていきました。午後からは、川の生き物を調べと観察。多くの種の命の大切さを学び、豊かな自然環境が、動植物の食物連鎖や生態系に必要なものであることを学びました。



イカダで五十鈴川清掃

前回の活動で作ったイカダに乗って、五十鈴川を下りながらゴミを拾っていきました。

7

2017.10.15

- ◆昆虫観察
- 講師：新開孝さん
- ◆豆腐づくり



6

2017.9.24

- ◆どんぐりクッキー作り
- マテバシイの殻をむき、すり鉢を使って粉にしていきました。



昆虫写真家の新開孝さんによる昆虫観察を行いました。雨の中での観察となりましたが、スクール生は雨具を身にまとい熱心に新開さんのお話を聞いて昆虫を観察しました。今年は、ビオトープでの水生昆虫の観察もできました。学舎周辺で43種類の昆虫を見ることができました。

豆腐づくり

2回目で種蒔きした大豆は、サヤはできたのですが、豆の成長が悪く今回は、国産大豆を使って豆腐作りに挑戦しました。





第1回で刈り取り、第2回で脱穀した小麦を、3台の石臼を使って挽き小麦粉にしていきました。子どもたちは、体全身使ってうすを回していきます。大人でも大変な作業ですが、最後までがんばって粉にしていきました。

8

2017.11.12

◆麦畑づくり

耕うん機は、スクール生が交代で体験。機械に引っ張られないように力が必要です。



最初に畑の草取りを行いました。麦種を蒔く準備として、クワと耕うん機で耕うん作業。そして、麦の種を蒔いていきました。

9

2017.2.18

- ◆石臼で小麦挽き
- ◆イチゴ酵母づくり



イチゴで酵母づくり

松瀬地区で生産しているイチゴを使って酵母を作りました。

10

2018.3.4

- ◆閉校式
- ◆パン作り
- ◆文集づくり



まず、バターづくりから行いました。牛乳と生クリームをひたすらシェイクし20分程でバターが完成。今までの活動で作って来た材料（小麦・塩・イチゴ酵母・バター）を混ぜあわせパン生地を作っていました。発酵時間を利用して、1年間のエコスクールでの体験を通して学んだことや感想を書きました。

石窯でパン焼き

成型して2次発酵が終わったパンを焼き上げます。上手く焼きあがるかドキドキです。



森の学舎の周辺の水辺では、どんな植物や昆虫などの生き物が生息しているのだろうか？そんな小さな疑問から出発して、グラウンドに水辺環境を作ることになりました。



《目的・背景となる二冊》

親子参加による年10回程度の体験型環境学習(四季をまるごと体験 ecoスクール)のプログラムの一部として、森の学舎グラウンドで昆虫観察を実施し、畑で麦や大豆を育てています。昆虫観察(陸上の生物観察)と並行して水辺の生物観察と麦と並行して米を育てることを体験型環境学習に取り入れたいと思います。水辺の自然環境

を学習すること、麦以外の穀物を育てることで、環境学習に厚みを持たせます。そのためのピオトープ作りとその情報発信です。

森の学舎グラウンドの一部に、ミニ田んぼ、水路、池とつながった一連の水辺環境を制作しました。森の学舎隣の地区の集会所にある水タンク(地区の集会所の水タンクには、谷沢の水を注いでいます)からオーバーフローしている水をグラウンドに作ったピオトープにホースで引きます。

《池と田んぼづくり》

まずは、グラウンドに池と田んぼの穴を掘っていきました。手掘りでの作業を計画していたのですが、作業日数も限られていたこともあり、ショベルカーをレンタルし穴掘り作業を進めていきました。



池や田んぼを掘削してでた土の山を平らに整地し、初めてのショベルカーの操作に苦戦しながら2日間をかけて池と田んぼを掘削しました。

《自然の復元力にゆだねる》

ピオトープのミニ田んぼには、米苗を植えることになりましたが、他は人工的に草や虫・魚を持ってこず自然の復元力に委ねます。

事務局で育てた10cmに成長した古代米の苗を、ミニ田んぼへ植えました。4m強×3m強の広さのミニ田んぼに、10×15筋で植えていきました。これから、どのように成長していくかを観察していきます。

《生き物たちが集まる》

池と田んぼに水を入れるとすぐにトンボ、アメンボがやってきました。一日かけて水をためると翌朝にはアメンボが6匹に増えていきます。シオカフトンボは、早速産卵にやってきました。6月には、ホタルがやって来ました。ヒメボタルとハイケボタルの2種類を確認することができました。

他に落ち葉を堆肥にするための落ち葉置き場を、ミニ田んぼの近くに配置しました。



スコップで穴掘り



タコで固めて形を整えていきます



ショベルカーを使って掘削(1日目)



池に水をいれました



細かい所は、スコップで作業



ショベルカーを使って掘削(2日目)



田んぼと池を繋ぐ用水路も作成



池の周りに土手を作ってみました



幼児さんもスコップでお手伝い



古代米を植えました



田んぼの土手づくり



田んぼ地直し



ビオトップ柵



落ち葉入れ



田植えから1か月後



9/25 ecoスクール観察



6/25 ecoスクール観察



田植えから2か月後

File 1

川をたのしく親しまう 2017年7月23日

環境プログラム



参加者：大人15人/子ども13人(内幼児6人)

スタッフ：8人(内ネイチャーゲームリーダー3人)



そうめん流し
川遊びが終わった後の昼食は、
素麺と野菜のかき揚げ。



川流れ
アメンボのようになって川を
流れていきました。



ジグソーストーン
皆で協力して、石のジグソーを
完成していきました。

ネイチャーゲームで、自然をさまざまな感覚や心を通じて理解し、自然と自分が一体であることを学びます。川あそびを通して自然の豊かさを楽しみ、自然の大切さを学びます。

子どもたちとその保護者が、ネイチャーゲーム(川あそび)と川の生き物調べを通して、豊かでない水と、多様な水生動物に触れることで、ふだんの生活では気づくことができなかった自然の大切さが実感でき、きれいな川を守るために自分ができることを考えることができ、自然を大切に守ろうと思う心の芽生えは、子どもたちの健全育成に大きな影響をあたえます。

■オリエンテーション
主催者あいさつ、写真撮影と取材のお願い、活動の注意、スタッフの紹介後、ライフジャケットの着用については、実演でしっかりと説明をしていきました。

■ネイチャーゲームと川あそび
さっそく河原に降りて行きます。ネイチャーゲーム指導は、子ども森スタッフでもあるネイチャーゲームリーダーのえびちゃん、ケンケン、ジュンちゃんらが担当しました。ネイチャーゲーム(ジグソーストーン)へミステリア(アニマル)を体験していきました。川あそび(川の音を聞く・生き物を探してみよう・ササ舟流し・いき物さがし)を体験し、五十鈴川にはどんな生き物がいるか皆でさがしていきました。最後に両手両足の大きくひろげ全身の力を抜き、川の流れに身を任せて流れていきました。

File 2

木と遊ぼう！木に学ぼう！ 2017年12月3日

参加者：大人8人、子ども11人(内幼児4人)
スタッフ：5人(指導者含む)



ネイチャークラフト
木の枝・木の実などを使って、
作品が出来上がりました。



ドングリ苗づくり
竹ポットにドングリを植えて
いきました。



測定器で樹高測定
測定器で角度を確認して、巻尺
で距離を測っています。

この体験型環境学習は、樹木の二酸化炭素吸収量学習、ドングリ苗木のポットづくり、ドングリを使った工作を通して、自然の豊かさを楽しみ、自然の大切さを学びます。

■環境学習(樹木の二酸化炭素吸収量の測定)
教室で樹木の高さの測定方法と、測定する樹木の名前を確認しました。今回測定する樹木は、「セシダン」「イヌマキ」「サクラ」「モチノキ」です。樹木の二酸化炭素吸収量の計算をして、人間一人が呼吸で吐き出す二酸化炭素を吸収と家庭で使う電気を発電する際に排出される二酸化炭素を吸収するのに樹木が何本必要なのかを求めます。

■炙り焼きソーセージ作り
炙り焼きソーセージの生地作りと釜戸でのご飯炊きの2組に分かれておこないました。ソーセージは、自分が食べる2本分の竹串にソーセージの生地を付けていき、炭火で焼いていきます。

■ドングリ苗づくり
最初にドングリクイズ4問を実施。このドングリクイズで、竹ポットに植えるドングリの向きを確認してもらいます。ドングリは、「クヌギ」「マテバシイ」「イチイガシ」「ナラガシワ」「コナラ」の5種類です。それぞれ好きなドングリを選び2〜3個を竹ポットに植えます。芽が出て2〜3年経って苗木になったら森の学舎に持ってきて山へ植樹します。

■ネイチャークラフト
いろんな種類の自然素材を使って思い思いの作品を作っていました。

子どもの森が取り組む豊かな森づくり活動

◆子どもの森一号地

2004年から取り組んでいる地球温暖化防止と荒れた森林の保全を目的として、杉間伐地の私有地に広葉樹を植樹、杉と広葉樹の複層林となつていきます。

◆妖精の森

手入れがされず放置されていく竹林を、子どもが入り遊ぶことができる広葉樹の林に再生し、人や動植物にやさしい自然環境と水源かん養や災害の防止など森林の公益的機能の維持増進を図るために、平成21年度から継続して竹の伐採を続けています。

伐採竹は、粉碎機でチップにして堆肥作りを兼ねて森の学舎グラウンドの一部に散布しました。また、伐採した竹で棚を作り、棚に倒竹や竹笹部分等を積んでいます。その他に、「四季をまらごと体験e.c.o.スクール」の竹イカダ、「川をたのしく親しもう」の素麺流しに利用。一昨年度から販売している竹炭・竹チップ・竹パウダーにも伐採した竹を活用しています。

◆GOCAN(五感)の森

2006年から台風で植林された杉が流された明川高等学校演習林の自然環境の復元を図り、水源の涵養や災害防止など森林の公益的機能の再生のため植樹整備を行っています。



伐採した竹は、販売様に加工します。炭焼き窯で「竹炭」。粉碎機では、「竹チップ」「竹粉」にしています。売上金は、森づくりのために活用されます。

森林づくり

自然を守りしっかり育てる

- ◆子どもの森一号地
- ◆GOCAN(五感)の森
- ◆妖精の森



topics

◆取材◆
宮崎日日新聞社 5月16日掲載
四季をまらごと体験e.c.o.スクール(開校)



みやざきエコフェスティバル 7月15日
主催：宮崎県環境みやざき推進協議会
イオンモール宮崎1階
ウエストコートで開催された『みやざきエコフェスティバル2017』に出展しました。子どもの森は、ネイチャーワークの「森の妖精づくり」を午後1時30分〜5時まで行いました。

子どもの森の29年度活動方針を決めるための第17回通常総会を開催。総会終了後は、お楽しみ昼食会を開催。里山散策と野草摘みを行いました。
昼食メニューは、釜戸炊飯、野草は、かき揚げ&餃子、野草ピザでした。



2017年
4月29日

総会&お楽しみ会
～筍・摘み草を食べよう～



小麦について

シリーズ 7

畑をつくって、タネをまこう

タネまきの時期は、10月下旬から11月末にかけて。ただし寒い地方は、早めにタネまきをすませよう。畑は、できるだけ日当たりのいい、水はけのよいところにつくろう。麦は、秋から6月まで育つから、畑をつくるほかの作物とのくみあわせをいろいろとくふうしてみよう。

昔から「麦は肥料でつくり、イネは土でつくる」といわれるように、かんがい水から養分がえられるイネとちがって麦は無肥料では収量が大きくおちてしまいやすい。肥料の量は、条件によってかわってくる。寒い地域ではチツソをひかえてリン酸をふやし、火山灰土ではリン酸をふやすといい。また、大豆や野菜のあとにつくるときは、肥料は3〜5割ほどへらしたほうが安全だ。

タネまき

タネはスジまき、または点まきにする。1平方メートルあたり、200〜250つぶのタネをまく。タネをまいたら、2〜3センチくらい土をかぶせる。

土の酸性度

麦は、酸性の土に弱いので、石灰をまいて、じゅうぶんたがやし、一週間ほどなじませる。土は25〜30センチくらいの深さまで、できるだけこまかく耕そう。排水のためのみそも作っておく。

農協・卒の絵本から

学舎の開放



■宮崎旅

2017年8月5日～6日

横山理事企画による熊本県菊陽町在住の小学4年生2名が森の学舎で1泊2日の自然体験をおこないました。

■山の会宿泊

2017年5月5日～6日

山の会4名の方が、尾鈴登山後の宿泊に利用していただきました。



もりのまなびや

森の学舎



旧西門川小学校松瀬分校を活用している森の学舎。環境プログラムの開催と環境文庫の常設をしています。また、団体への施設開放、自然体験活動の受け入れもおこなっています。



草刈り作業

2017年6月10日・11日・18日
 8月16日・25日
 9月10日
 10月8日～9日



2017年4月30日/5月2日～7日

今年のGWも、森の学舎の整備等を行ないました。

- ① イヌマキとキンモクセイの剪定
- ② 森の学舎周辺草刈り
- ③ ecoスクール準備(麦のはさ掛け)
- ④ 妖精の森の幼竹伐採

7月30日

五右衛門風呂の洗い場修理

8月16日

炭火焼小屋修理・教室棟の網戸制作

9月23日

銀杏の収穫



- * 国立青少年教育振興機構「子どもゆめ基金」
川をたのしく親しもう／木と遊ぼう！木に学ぼう！
春をたのしもう／四季をまるごと体験 eco スクール
- * イオン黄色いレシート
イオン各店での黄色いレシートキャンペーン箱に投函されたレシート金額の1%相当額の物品が活動全般に寄贈されます。
- * 全労済地域貢献助成事業助成
- * プルデンシャル生命保険株式会社による寄附
- * 個人による寄附

ありがとうございました

2018年度活動予定

月	予定/実施日	活動名	備考/内容
平成30年	2 2 (日)	第18回通常総会	森の学舎
	2 9、3 0	森の学舎整備	森の学舎
5	1、4、5、6	森の学舎整備	森の学舎
	1 9 (土)	①eco スクール開校式、ネイチャーゲーム、麦刈りとはさ掛け	森の学舎
	2 0 (日)	eco スクール準備海水汲み、麦脱穀の準備	森の学舎
	2 6 (土)	②eco スクールダンボールコンポスト、麦脱穀と風選	森の学舎
6	2 (土) 3 (日)	森の学舎整備草刈り、ピオトープ	森の学舎
	1 6 (土)	③eco スクール塩作り、ピオトープ観察	森の学舎
	1 7 (日)	みやざき森づくりボランティア協議会総会	西都市
7	7 (土) 8 (日)	eco スクール準備竹伐り、コンパネ加工	森の学舎
	1 4 (土)	④eco スクールイカダ作り、ピオトープ観察	森の学舎
	2 8 (土)	川をたのしく親しもう準備	五十鈴川
	2 9 (日)	川をたのしく親しもう	五十鈴川
8	4 (土)	eco スクール準備イカダ登口草刈	五十鈴川
	5 (日)	⑤eco スクール河川清掃、川の生きもの調査	五十鈴川
	25 (土) 26 (日)	森の学舎整備 草刈り	森の学舎
9	29 (土) 30 (日)	学舎キャンプ	森の学舎
10	1 3 (土)	昆虫カメラマンに挑戦準備	森の学舎
	1 4 (日)	昆虫カメラマンに挑戦	森の学舎
	20 (土) 21 (日)	森の学舎整備 草刈り	森の学舎
11	4 (日) 10 (土)	eco スクール準備麦畑事前整備	森の学舎
	1 1 (日)	⑥eco スクール麦畑整備、麦のダネ蒔き	森の学舎
12	1 (土)	森のエコクッキングとドングリ育て準備	森の学舎
	2 (日)	森のエコクッキングとドングリ育て	森の学舎
	1 5 (土)	⑦eco スクール酵環境学習、麦踏み、ドングリ工作	森の学舎
平成31年	16 (土) 17 (日)	竹林整備	森の学舎
	2 3 (土)	⑧eco スクール酵母作り、石臼で小麦挽き	森の学舎
3	9 (土)	⑨eco スクールパン作り、文集書き、閉校	森の学舎
	2 3 (土)	春を楽しもう準備	森の学舎
	2 4 (日)	春を楽しもう	森の学舎
4	7 (日)	理事会、会計監査	森の学舎
	2 1 (日)	第19回通常総会	森の学舎

＊そうだ、ボランティアしたい、と思った方へ＊

子どもの森は、ボランティア・会員さんの手で支えられています。なかまが増えれば、もっと多くの充実した活動ができます。あなたの持っている力を、子どもの森の活動に活かしてみませんか。

■正会員になると
総会等へ議決権を持って参加し、意見を述べ、子どもの森の活動に反映させていきます。

年会費5,000円

編集後記

子どもの森の活動拠点である森の学舎(もりのまなびや)は、(旧)西門川小学校松瀬分校です。松瀬分校は、1896年(明治29年)開校の小学校(川内尋常小学校松瀬分校)です。1999年4月に児童数の減少で休校、その後2006年4月に廃校となりました。

この校舎は、昭和28年に建てられた木造校舎です。森の学舎として活用することになり2007年11月からできるだけ当時のままで活用できるように会員・ボランティアの皆さんで一年かけて清掃、修理をおこないました。そして2008年11月に森の学舎(もりのまなびや)環境文庫がオープンしました。自然環境豊かな場所でのんびりと環境の勉強をしていただくように、環境関係の図書、児童書・絵本、温暖化・気象、食・農等の書籍を用意しています。また、環境プログラムの開催。環境情報、学習の発信拠点として活用しており、森の学舎は、みなさんが遊びに来られるのを待ちしております。

表紙写真



森の学舎(旧西門川小学校松瀬分校)

子どもの森通信 第15号

発行・編集：特定非営利活動法人子どもの森広報委員会 〒889-0604 宮崎県東臼杵郡門川町大字川内字イカダ場 3412 番地 1
TEL: 0982-95-7800 FAX: 0982-63-0009 Mail: office09@kodomonomori.info
http://www.kodomonomori.info facebook https://facebook.com/npo.kodomonomori